

NEUTRAL 通信 vol.2

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」というNEUTRALのコンセプト実現に向け、NEUTRAL通信を発行しました！
第二回はギャラリーパークで展示をしている、むらたちひろさんにインタビュー。
NEUTRAL通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

beyond

2022.8.13 sat. - 9.4 sun.



染織作家

むらたちひろ / **CHIHIRO MURATA**

染織作家・むらたちひろ（1986年・京都生まれ）は、「染色」への探究心を始点に、「染める／染まる」という行為・現象に着目した作品制作に取り組んできました。

主な展示に「VOCA展 2022 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—」（上野の森美術館 / 2022）、TOKAS Emerging 2022 「彼方の果」（トーキョーアーツアンドスペース本郷 / 2022）、「borders / boundries」（YOD Gallery / 2022）など。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE



SHOKODO
KYOTO

NEUTRAL

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

第167回 芥川賞受賞作、高瀬隼子『おいしいごはんが食べられますように』全文掲載『文藝春秋 2022年9月号』が発売中です。直木賞受賞作、窪美澄『夜に星を放つ』も単行本と著者過去作品も併せて展開中。残暑がまだまだ続きそうですが、お出かけの際はカバンに1冊文庫本... はいかがでしょうか？
また、大垣書店80周年記念、限定オリジナルブックカバーを配布しております！
営業時間：10:00~22:00 TEL：075-431-5551

京都初！皮まで食べられる国産バナナ!? SLOW PAGEではたいへん希少な農業不使用で国産の“京はんなりバナナ”を使用した【はんなりバナナジュース（¥780）】を販売中！京都府亀岡市にて育てられた、人にも環境にも優しいバナナです。バナナの上品な甘みが際立つ一品に仕上がっております。お立ち寄りになられた際はぜひご賞味ください!!!
営業時間：8:30~23:00 TEL：075-431-5551

印刷会社「修美社」が運営する印刷工房。本屋の中で本づくりから販売展示の提案をしています。
「抽象的静物」岡田将充 / Okada Masamitsu
2022.08.18 thu. - 09.20 tue.
3DCGを用いたグラフィック / アートワーク作品の展示を行います。
営業時間：10:00~18:00 TEL：080-4248-3432 月・日祝 定休

「大垣書店 創業80周年連動企画 超文庫祭」
2022.08.11 thu. - 08.28 sun.
大垣書店創業 80 周年を記念して、大垣書店スタッフがオススメする文庫祭が各店で開催中。NEUTRALでは全店の文庫を集めた“超文庫祭”を開催しています。約700冊の選書と、全店スタッフの選書コメントを見ていただけます。
営業時間：10:00~19:00 TEL：075-431-5537

「beyond」むらたちひろ Murata Chihiro
2022.08.13 sat. - 09.04 sun.
「New Intimacies -Wild Wild West-」
2022.09.11 sun. - 09.25 sun.
営業時間：13:00~19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休



〒602-8242 京都府京都市上京区毘叟町287
[アクセス]
○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分
○京都市バス9番・12番・50番・67番系統
「堀川中立売」バス停下車徒歩1分
○駐車場・駐輪場あり
※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。



ホームページ



Instagram

お問い合わせはHPまで



——作家を志したきっかけは？

はつきりこれ！ といったものはないのですが、作るという意味では子供のころから折り紙が好きでした。大きな紙を使って、折り鶴がたくさん繋がったものを作ったりしていました。また、着物と触れる機会が多かったのも影響しているかも。祖父が着物の図案を「青花」で反物に写す職人だったことや、お琴を習っていたので着物を身につける機会があったこともあり、着物が好きでした。こんな背景で美術高校に進学した、というのが表の理由です。

——ということは裏の理由も？

はい、中学校が全体的にまじめでおとなしく、とにかく平和で、今思うとちょっと退屈だったのかな。これといって学校生活での事件みたいなものも無くて。高校はせっかく進路を選べるから好きなのところに行こうと。それで美術高校に行ったのですが、とにかくみんな自由で人の目を気にしない雰囲気がいい意味で衝撃でした。校庭が小さくて、体育の授業で鴨川を走ったのも思い出です。

——高校生活はいかがでしたか？

リチャード・ギアに似た体育の先生がいたんですけど、校庭で亀を（勝手に）飼っていたり（笑）。先生も自由で面白かったです。また、作家活動をしていた先生もいて、先生の個展が近くなると話しかけづらかったですね。作家として現役感があり、先生の展示会をみに行ったのもよい思い出です。次の進路を考えるころに、靴を作りたくなって専門学校への進学を考えたりもしましたが、大学へ行ってから考えようと思って芸大に進学しました。4回生のころ、再び靴の専門学校へ見学に行きましたが、まだ染織をやり足りない気持ちに気が付いて、そのまま今に至ります。

——今回の作品について聞かせてください。

まず今回の展示についてですが、今年、東京の展示会（VOCA展）に出品した大型の新作「beyond 06「遠さへの光」」を展示する機会でもあり、また、これまでの「beyond」シリーズを初期の作品からご覧いただける機会でもあります。

作品の背景にあるのは、私が人との関わりの中で感じる「距離感」「遠さ」といったものです。生地を染める工程で、色が広がり遠ざかっていくところを眺めながらふと考えたんです。その感覚がさみしいといったことではなく、どれだけ遠さを感じても、遠さを含めて友達でいられたり、関係性を築いたりできる、そうした「遠さ」ってあるなあと。なので、遠くに開けていく感覚に包み込まれるような体験にしたいと、大きなサイズで制作しています。

立てかけている作品は初期のころから近作への過渡期的なもので、「遠ざかる」感覚を確かめる工程のものであり、作品として出していますが、変化中のものという認識です。beyond 06についてはパネルをグレーに塗装しています。これは制作途中の環境、特に染めているときの濡れた状態とそこからみえた色を意識しています。

今後の展開については、いつかは大型作品だけで空間を全て埋めて全身で広がりを感じてみたいです。

——影響を受けた作家は？

2011年の震災があった翌日、パウル・クレーの展示をみに行きました。大変な状況がメディアで大量に流され、私もそうした現実に動揺していましたが、作品をみたときにきれいな色彩にほっとして救われた気持ちになりました。クレーの生きた社会が描かれている作品も多いのですが、作品としてまず美しく。私もそうでありたいと思いました。現実から少し離れられる時間がこれほどありがたいのかと、美術の存在意義を実感する機会にもなりました。

——制作環境について

二条城の近くにあるシェアアトリエで制作しています。メンバーは5人いるのですが、皆程よい距離感で活動しています。

——お客様にひとこと

一息つきに、ゆっくり見ていただければ。あと暑い日が続いているので涼んでみてください（笑）。



最近読んだ本、雑誌

- 『ボケット詩集』シリーズ 童話社
- 『人権からみた近代京都』 世界人権問題研究センター
- 『ダメじゃないんじゃないじゃない』 KADOKAWA
- 『日本のやばい女の子』シリーズ 柏書房
- 『シューフィル』 靴の専門雑誌